

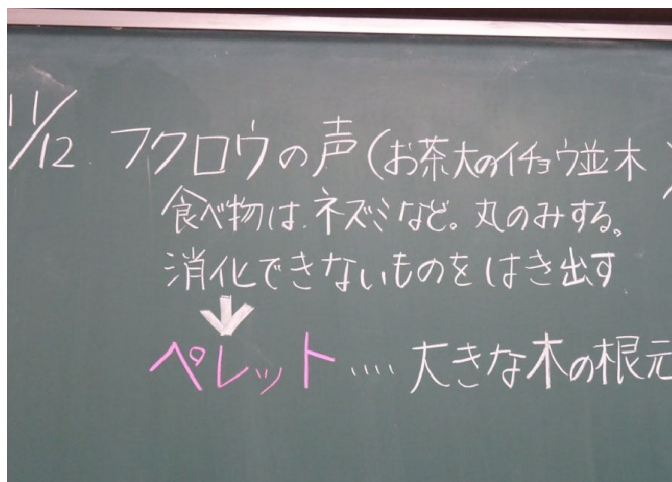
「お茶フクロウ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

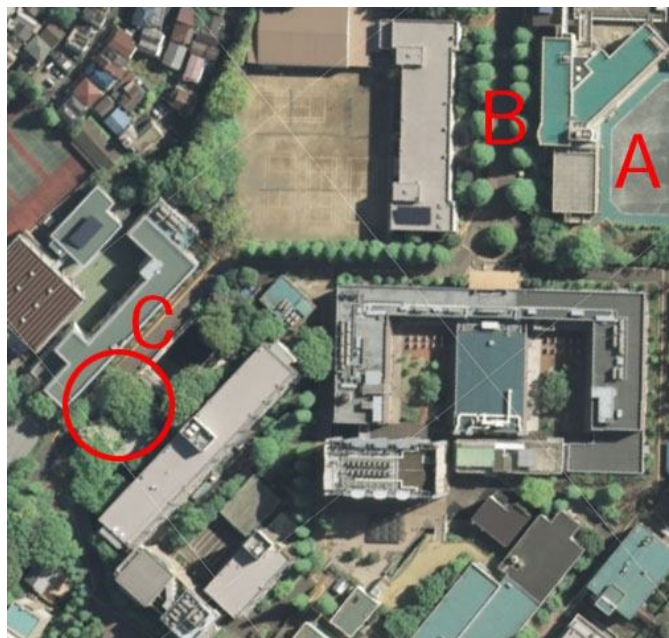
4年生の「秋の自然観察」の一環として、「フクロウのペレット」も探してみることにした。



まずは数日前に、イチョウ並木でフクロウの声がしたことや、フクロウのおおまかな習性を説明した。フクロウはネズミや小型の野鳥を「丸飲み」にし、消化できなかったものを丸めて吐き出すことも説明した。それは「ペレット」と呼ばれ、それが落ちていたら、間違いなく大学構内でフクロウが生活している証拠になる、といった話をした。



子どもたちはほとんど「意味不明」という顔をしていたので、各班にペレットの実物写真を拡大したものを配布した。子どもたちは、ペレットの中にネズミの獣毛や骨、それに野鳥の羽毛などが含まれていることに驚いていた。これは効果的だった。子どもたちは口ぐちに「よーし、フクロウのペレット見つけるぞー！」と意気込んで出かけた。



(国土地理院提供)

図は、大学構内一部の航空写真である。Aが附属小学校、Bがフクロウの声が聞こえたイチョウ並木、Cは理学部の裏にあるケヤキの大木だ。自然観察に出かける時は、必ずこのケヤキの下を通る。まずはこのケヤキの木の下を探してみることにした。



ケヤキの下は、落葉で一杯だった。ペレット探しをしていると、どれもこれもペレットに見えてくる。もちろん、そう簡単には見つからない。たった1羽のフクロウが残したペレットが、ピンポイントの検索で見つかったら、むしろ奇跡に近いだろう。

ちょうど通りかかった、大学の用務の方が、「ドングリか何か探しているんですか」と尋ねてきた。「いいえ、フクロウの吐きだしたペレットを探しているのです」と答えると、興味を持ってくださったようだ。毎日構内のはき掃除をしてらっしゃる方なので、ペレットの写真を見ていただき、もし見つけたら小学校に届けてほしいとお願いしておいた。